甲状腺外科草子 137

古文復習：新古今の「恋」

杉野　圭三

新古今和歌集の「**恋**」の歌は五部まで、446首掲載されている。

天つ空豊の明りに見し人のなほ面影のしひて恋しき（1004，前大納言公任）

（五節の舞のあなたの面影が恋しい）

思ひあまりそなたの空をながむれば霞を分けて春雨ぞふる（1107，藤原俊成）

（雨降る日、女につかはしける）とある。

夢とても人に語るな知るといへば手枕ならぬ枕だにせず（1159，伊勢）

（忍びたる人とふたり臥して）枕は人の秘密を知るというので手枕でない枕さえしていない。

いかにせむ葛の裏吹く秋風に下葉の露の隠れなき身を（1166，相模）

（人しれず忍びけることを文など散らすと聞きける人につかはしける）、貴方の仕打ちで、下葉の露があらわになるように秘め事が人目にさらされた。

確かにひどい！プライバシー侵害で問題になりそう。

待つ宵に更けゆく鐘の声聞けば飽かぬ別れの鳥はものかは（1191，小侍従）

小侍従が主人の大宮院に「恋人を待つ宵と、恋人が帰る朝ではどちらがあわれ深いか？」と聞かれ待つ宵の方がつらいと詠んだ歌。評判高く「**待つ宵の小侍従**」と呼ばれたとのこと。

よしさらば後の世とだに頼めおけつらさに堪へぬ身ともこそなれ（1232、藤原俊成）

頼めおかむたださばかりを契りにて憂き世の中の夢になしてよ（1233，藤原定家朝臣母）

両親の歌を取り上げた定家の心中はいかに！

聞くやいかにうはの空なる風だにも松に音する習ひありとは（1199，宮内卿）

後鳥羽院の歌合わせで、この初句を聞いた対戦相手の藤原有家は思わず「アッ！」と声を出し、負けを悟ったと伝わる。

儀同三司母　　宮内卿　　俊成女

忘れじの行末まではかたければけふを限りに命ともがな（1149、儀同三司母）

中関白通ひそめ侍りける頃。**儀同三司母**（高階貴子、高内侍）は伊周、隆家、中宮定子の母、和歌や漢文に秀でた才女として有名。宮中で道隆が見初め、栄華と没落の波乱の人生を経験した。

露払ふ寝覚めは秋の昔にて見はてぬ夢に残る面影（1326，俊成女）

命にもまさりて惜しくあるものは見果てぬ夢の覚むるなりけり（壬生忠岑、古今集609）と同じ情感。

俊成卿女は様々な歌集を繰り返し読んだ後、片付け、ひとり静かに考えをめぐらした。**宮内卿**は歌集をずっと手元に置きメモをとりながら考え続けたと伝わる。

野辺の露は色もなくてやこぼれつる袖より過ぐる荻の上風（1338，前大僧正慈円）

いかに寝て見えしなるらむうたたねの夢よりのちはものをこそ思へ（1380，赤染衛門）

どのように寝て恋人と逢うと見えたのか、うたた寝の夢のあとは物思いにふける。

うれしくは忘るることもありなましつらきぞ長き形見なりける（1403，深養父）

わが身こそあらぬかとのみたどらるれ問ふべき人に忘られしより（1405，小野小町）

梅の花香をのみ袖にとどめおきてわが思ふ人は訪れもせぬ（1410，業平朝臣）

「恋」の歌は奥が深い。男女の恨みつらみも多く、朴念仁の小生には難解すぎます！

甲状腺外科草子既出、百人一首掲載の歌は極力省略した。

参考資料：Wikipedia,ビギナーズクラシックス新古今和歌集（角川ソフィア文庫）菱川師宣画（国立国会図書館蔵）など

（　一甲状腺外科医の徒然なる随想　）

2025 年 5 月 16 日